



# 名古屋大須ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

NO 950

＜本年度クラブ会長方針＞

**LEAD THE WAY - 率先しよう**



承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル  
 会長 神田 憲 URL <http://www.nagoya-osu.org> Email [office@nagoya-osu.org](mailto:office@nagoya-osu.org)  
 幹事 内藤 明 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337  
 事務局 460-0008 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル 6F

2006～2007年度  
 R. I. 会長  
 ウィリアム B. ボイド

## 雑誌月間

第110回例会

於：名古屋東急ホテル  
平成19年4月12日(木)

出席計算数 63名中 50名出席  
 会員69名  
 出席率 70・37%  
 前々回出席率 90・48%

### ロータリーソング

「ROTARY」

指揮者 大原 敏正  
 ピアノ演奏 富板 玲子

### ゲスト

常滑RC 会長 谷川 和親さん

### ニコボックス

横内さん、卓話を楽しみにしています。吉田 隆彦・堀江 英弥

### 卓話代

4月は雑誌月間です。横内 恭  
久しぶりです。杉本 英夫  
春です、あたたかい日が続くと幸福です。小笠原和俊  
誕生日です。前田 隆久

### 妻の誕生日です。

加藤 正樹・中根 了晟  
鈴木さんありがとうございます。鈴木 洋  
尾上 昇

鈴木さんありがとうございます。

川畑 博敬

### 会長挨拶



会長 神田 憲

1995年Nise, Franceの世界大会の途中でLondonに宿泊し、風食にホテル近くのPubへ入った処で偶然にも例会を開催しておりました。話をきくと年数回ホテル会場ではなく持出しの例会をするとの事でした。途中からの参加で様子が分からず、お腹が減っており先ず食事にありつくことを考え、周りのロータリアンに尋ねたところ何でも好きなものを勝手に頼めばいいと言われイギリス風食の定番「Fish & Chips」を食べました。テーブルではタバコは禁止ですが入口近くのカウンターでは皆が吸っていました。今LondonのPubではタバコは禁止となっています。

もう一つはTaiwanでの想い出です。桃園空港と台北の間に林口と言う都市がありその林口ゴルフ場でプレイをした時、フロントのを終り風食の為クラブハウスに入ったら、林口扶輪社が例会をしており飛入りをしました、このRCは当時(15年位前)創立3

回目の例会で私が初めての外国人としての訪問だったそうです。尾上昇さんも明日より台湾に行かれこの林口でゴルフをされるそうです、楽しんできて下さい。  
 今回は食事に入った所でたまに例会を開催していた想い出話です。

### 卓話

#### 「雑誌月間に因んで」



雑誌委員長 横内 恭

雑誌月間です。ロータリーの友「雑誌」をみましょう。ロータリアンには三つの守るべき義務があります。会費を納めること、例会に出席すること、そしてロータリー雑誌を読むことです。機関雑誌である「ザ・ロータリアン」と世界各国に三十種の地域雑誌があり、日本では一九五三年(昭和二十八年)にロータリーの友が創刊されました。今年の四月からは通算で六五二号。半世紀を越えて読み継がれてきたのです。

ところで、日本の最初の雑誌は一八六七年(慶応三年)に

やながわしんせん

柳河春三が創刊した「西洋雑誌」です。文明開化の時代、春三は西欧の諸事情を翻訳、紹介しましたが二年後、彼の死とともに六号で廃刊となりました。この優れた人物、春三は名古屋生まれです。幼少から人も驚く天才で、三歳で尾張藩に召されて御前揮毫したともいわれ、蘭学を学んでから二十八歳で江戸に出て活躍。「洋学指針」「洋算用法」など多くの書物を出しましたがわずかに三十九歳でこの世を去りました。いま日本での雑誌の出版は、年間で約四十億冊を越えています。そのルーツは名古屋人です。大いに誇りにして雑誌文化を大事にいきましょう。



### 職業奉仕委員会

委員長 近藤宏一郎

ロータリー創立75周年決議23・34

テクニカル・ヒューマン・サービス・メンバーシップ・プログラムは、奉仕の実践とは抽象的観念的な道徳論ではなく、現に今さまさまの面でお金を必要としている人達に対し、金銭的に援助

の手を差し伸べることだと、と確信し、1907年、新たにライオンズという奉仕クラブを設立しました。"The Lion Service"という理念のロータリーに対し、明らかに違った道を示して"the service"と叫ぶ今日のライオンズクラブが誕生したのであります。

なお、これらに留まらず、この問題はその後ロータリー内部で燃り続け、早くもその翌年、1908年にオハイオ州エリリア・ロータリークラブが設立されるや、これぞ絶好の機会とばかりエドガー・アレン＝Edgar Allen＝という人物が入会してきつ、一挙に大論争の火が燃え上がりました。アレンはかねがね身体障害者救済問題に深い関心を持っており、これこそロータリーの様な奉仕団体が取り組むべき緊急の課題だとして積極的に各クラブに働きかけ、1902年のロサンゼルス国際大会で決議案を採択させることにも成功しました。ところが、これが却って火に油を注ぐ様な結果となつて、ロータリーの基本理念を守ろうとする人達との大論争になり、ロータリーもあわや空中分解するかと危ぶまれる程の騒動になったのです。そして、もう一つにも收拾つかぬ様な状態にまで追い込まれた時にできたのが翌1903年のセント・ルイス大会で採択さ

れた、あの歴史に残る名言「決議23-34」なのであります。

「セント・ルイス宣言」という別称まであるこの名決議の真髄は、改めて今申すまでもありませんが「根本問題として、ロータリーは、自己のために利益を得ようとする欲望と、他人に奉仕しようとする義務感と、それに伴つた衝動との間に常に起る争いを和解させようとする人生の哲学である」という一節に凝縮されている。と言つていいでしょう。従つてこの決議は、その第一番に「ロータリーに於いて社会奉仕とは、ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活及び社会生活に奉仕の理想を適用することを鼓吹かつ育成することである」と謳い上げ、そしてまた「ロータリー・クラブの社会奉仕活動は、ロータリー・クラブの会員を、奉仕という点で訓練しようとする実験」としてのみ考慮せらるべきである」と釘をさしているのです。

「ここから明瞭に読み取れるのは、ロータリーの奉仕とは、会員一人一人、各個人の問題である。会員一人一人を奉仕献身の、より良い人間に育てあげるのがクラブの責務であつて、ロータリーが提唱する様々なプロジェクトは皆その為の実験手段に過ぎない、という基本精神です。即ちロータリーの精

神的骨格がアーサー・シエルドン入会後15年の波瀾試験を経て、ここにしっかりと固まつた、と言つていいでしょう。

ロータリーの議論でも、「原点に還れ」という言葉が繰返し使われますが、然らばその原点とは何かとなることも曖昧になつてしまふ。然し、ロータリーの原点は正に「この精神的骨格が完成した1903年にあるのです。」決議23-34「はロータリアンたる者反覆論和すべき聖典であります。その内容を極めて簡略に言つながら、

**第1** ロータリーとは何か。決議23-34の第1項は、ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴つた他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。「この哲学は奉仕」「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践論理の原理に基づくものであると規定しています。

もつと分かり易いならば、根本的に、人間は自己のために利益を得たいという欲望がある。しかし、一方人様のために尽くさなければ相済みないという良心をもっている。

「この欲望と良心の争いをうまく調和するのがロータリーの人生哲学である。」

ただ単にロータリーといえは何か、それは利己と利他、自分を利する（利己）と他人を利する（利他）と利他との調和にする人生哲学である（ことを表明していません）。

**第2** ロータリークラブの役割は何か。ロータリーは奉仕の哲学を受け入れ、奉仕の基礎である（人生の成功と幸福の基礎である）ことを団体で学び、個人としてその理論を日常生活に実践し、又個人団体とも地域社会にもその実例を示していくことである。

**第3** 国際ロータリーの目的は何か。奉仕の理想を育成し、普及し、ロータリークラブの設立、激励、援助、情報交換所として各ロータリークラブに強制ではなく有益な助言を与えることである。

**第4** 奉仕するものは行動しなくてはならない。ロータリーは単なる心構えのことをいうのではなく、ロータリーの哲学も単に主観的なものであつてはならず、それを客観的な行動に表わさなければならぬ。

**第5** 各ロータリークラブは、地域に適した奉仕を選ぶことに絶対的な自主権をもっている。むしろロータリー綱領を無視したり、

ロータリーの目的を危うくしてはならないが、国際ロータリーはクラブに有益な示唆を与えることはあつても、何かを命じたり、禁じたりすることは絶対にしてはならない。

**第6** ロータリークラブが団体活動する場合の指針を（a）～（f）まで6項目について詳しく記述したあと、7項目の「クラブがひと固まりとなつて行動するよりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するもの」がロータリーの精神によりかかつている。ロータリークラブでの社会奉仕活動はロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられた、いわば研究室の実験としてのみこれを見るべきである。」



4月26日(木)例会の御案内

卓話

「弊社のみそつくり」

合資会社 八丁味噌

社長 早川久右衛門さん

プリンセス委員会

山口 正孝 神野 邦利・大原 敏正